

悲惨な戦争を語り継ぎ 平和の尊さを伝えていきたい

平成22年8月7日から10日までの3泊4日の日程で、浦添市中学生平和交流団12人(中学生10人・教諭1人・引率1人)が被爆地長崎市を訪問しました。

浦添市では、昭和61年に「平和都市宣言」、平成8年に「核兵器廃絶宣言」を制定して、この精神を更に高めるため、平成8年度から中学生平和交流団を県外へ派遣しています。この派遣事業は、平和学習を通して未来を担う中学生が戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、次世代へと伝えていくことを目的としています。

15回目となる今年度は、昨年に引き続き長崎市を訪問しました。長崎市原爆資料館の見学や被爆65周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列、青少年ピースフォーラムへの参加などを通して原爆の実相を学ぶとともに、戦争のない社会をどのように実現していくかについて、意見交換を行いました。



その後は、ナゲラの壕や県立平和祈念資料館、平和の礎、ひめゆり平和祈念資料館を見学しました。轟の壕(トウ

事前研修 「沖縄戦を知る」

第1回事前研修では、チヂフチャーガマや嘉数高地、前田高地を巡り、私たちが住む浦添が地上戦の激戦地となったことなど、「沖縄戦」について学習しました。

第2回事前研修では、最初に浦添から大名へ向け移動しました。戦時中、日本軍司令部は首里にあり、そこへ向かう米軍を阻止しようとした日本軍は、経塚沢峠・大名帯で激しく抵抗しました。「血みどろの道」「地獄への道」と語られた米兵の証言が残っているほど、浦添全体が日米両軍の激戦地だったことを知りました。

ドウルチガマ)では、実際に壕の中に入り、戦争中にその場で生活した方の録音証言を聴くことで、当時の様子を体感しました。

青少年ピースフォーラム

8月8日、9日には、全国から集まった小中学生および高校生らと被爆の実相を学び、「平和の尊さ」について考えました。この中では様々な意見交換が行われ、また、「平和な世界をつくるためにできること」をテーマに参加者らが考えを出し合って、平和宣言文を作成しました。



恵みの丘 長崎原爆ホーム

被爆体験講話

松尾キヨ子さんから被爆体験を聴きました。原爆によって弟を亡くした悲しい体験や原爆投下時の様子などが語られ、原爆の恐ろしさや戦争は二度と繰り返してはならないことを伝えてもらいました。



松尾キヨ子さん

交流会

講話後に行われた交流会では、ホームの皆さんと楽しく交流しました。交流団が披露したエイサーには、会場から「もってこい、もってこい(長崎の方言でアンコールのこと)」と、歓声が上がりました。



平和祈念式典

被爆65周年となる今回の式典には、国内外から多くの方々が参列し、核兵器廃絶や恒久平和を願うとともに、犠牲となった多くの方々のご冥福を祈りました。



事後研修 「体験を振り返って」

事前研修で学んだ浦添・沖縄戦や長崎での本研修について、市長へ報告しました。また、壁新聞を作成し、8月23日から27日まで市役所1階ロビーで展示しました。



被爆者の方々の話を聞いて、原子爆弾はすべてを壊す恐ろしい兵器でもう絶対にはいけない物だという事を学びました。この研修で学んだ事は次世代を担う私たちが語り継いでいく義務があると思いました。私たちが平和の輪をもっと広げて行きたいと思いました。



浦添中学校
屋富祖 泰志

悲しいことに、人の命を簡単に奪ってしまう戦争は私たち人間が起こすものです。しかし、それ以上に戦争を起こさない努力ができるのも私たち人間なのです。過去の過ちをしっかりと学び、もう二度と人の命を簡単に奪ってしまう戦争をしないためにも、私たちが永久平和を叫び続けていきます。



仲西中学校
儀保 智也

今回、沖縄で起きた地上戦や広島と長崎に落とされた原爆の恐ろしさを改めて知り、核兵器がこの世に存在する限り平和な世界は訪れないと思いました。二度とこんな過ちを繰り返さないために、戦争の恐ろしさをみんなに伝え、少しずつ核兵器を減らして平和な世界を築き上げていきたいです。



神森中学校
森田 和志

今回の研修は、実際に長崎へ行って被爆者の話を聞き、戦争の恐ろしさ、原子爆弾の恐ろしさについて学びました。今、日本は戦争経験者が減ってきています。あの悲惨で愚かな戦争の記憶を絶対風化させず、僕たちが学んだことを出来るだけ多くの人に伝え、平和の大切さを語り継いでいきたいです。



港川中学校
金城 雄大

今回、長崎へ実際に向かい、その土地を一步一步踏みしめるように歴史や原爆の真実を学んできました。65年前、沖縄では地上戦の炎、長崎と広島では原爆の炎という二種の災いの炎が燃える事となりました。私たちは、学んだことを後の社会に風化させることなく伝えるために、努力していきます。



浦西中学校
長濱 努

今回の研修で、平和の尊さなど大切なことをたくさん学びました。また、平和祈念式典では、他国からの参列者の方々とも平和について考える機会ができ、感謝しています。核をつくらない世界を築くために、家族や友人など多くの人々に、平和の尊さを伝えていこうと思いました。



浦添中学校
荷川取 歩

今もなお続いている戦争を世界からなくすためにはどうしたらいいのか、初めは分かりませんでした。しかし、今回の研修では、一人ひとりが他人を思いやることで、戦争がなくなると知り、戦争をするのもやめるのも私たちです。これから、思いやりの心をみんなに広めていきたいです。



仲西中学校
西平 百那

今を生きている私は、戦争の悲惨さを知りませんでした。今回の研修を通して沖縄戦だけではなく、広島と長崎にも大きな被害があり、たった一発の原子爆弾でたくさんの人が亡くなったという事実を知りました。二度と無意味な戦争をしないように、65年前の悲惨な戦争を語り継いでいきたいです。



神森中学校
上原 麻舞

今回、平和を祈るだけでは戦争はなくなるということを学びました。実際に、まだ戦争をしている国があります。なので、戦争経験者からしっかりと学んで、私たちがあの悲惨な戦争、そして今ある平和の大切さを伝え、二度と戦争を起こす人が出てこないよう、その役目を果たしていきたいです。



港川中学校
山城 涼香

長崎県で、原子爆弾や放射線の恐ろしさを被爆者たちの語りで改めて知りました。被爆者の方が涙を流しながら語っている姿に心を打たれました。被爆体験者が高齢化している今、私たちは、もう一度、原子爆弾の恐ろしさを深く知り、深く考える必要があると思いました。



浦西中学校
植木 かれん